

■ 開設年度		■ 開講部局	
2022		共通教育	
■ 科目名			
稲盛和夫の経営哲学（Ⅱ）			
■ 英語科目名			
Management philosophy of Kazuo Inamori Ⅱ			
■ 前後期	■ 開講区分	■ 科目形態	■ 単位数
後期	毎週	講義	2
■（28年度以降入学生）中分類		■（28年度以降入学生）小分類	
教養教育科目(教養基礎科目)		人文社会科学分野（選択科目）	
■（27年度以前入学生）中分類		■（27年度以前入学生）小分類	
b. 知力：人文・社会科学		11. 経済・経営を学ぶ	
■ 受講学部学科			
全学部全学科			
■ 担当教員		■ 担当教員所属	
吉田健一		稲盛アカデミー	
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）	
099-285-3753		k5621643@kadai.jp	
■ オフィスアワー（授業時間外の対応）			
随時可（但し、事前にメールによる連絡をください）			
■ 共同担当教員			
■ アクティブ・ラーニング			
5. 学習の振り返り；			
■ アクティブ・ラーニング（「その他」の内容）			
■ アクティブ・ラーニング（授業回数）			
■ 理念 重要視する教育目標			
1. 自己理解 1) 自身の関心・能力・価値観を踏まえて行動できる			
■ 理念 教育目標			
1. 自己理解 1) 自身の関心・能力・価値観を踏まえて行動できる			
■ 理念 教育目標			
1. 自己理解 2) 必要な知識・技能の獲得に向けて行動できる			
■ 理念 教育目標			
6. 実践 1) 状況に応じた方法で必要な行動ができる			
■ 授業概要（目的・内容・方法）			
● 全15回の授業を対面形式で実施する。			
1. 授業の目的は、経営のベースとなる経営哲学について、現代日本の代表的経営者であり、本学工学部の卒業生である稲盛和夫氏の思想を理解することである。経営哲学の意義と、そのあるべき内容を理解することが本講義の目的である。			
2. 授業の内容は、稲盛氏の経営哲学の集大成である『京セラフィロソフィ』を熟読し、経営学、思想、宗教、人間観の知識を総動員し、担当者が解説を加えていく。			
3. 授業の方法は、毎時間、『京セラフィロソフィ』を担当者が解説し、受講生にはフィードバックシートを提出して頂く。次の時間にフィードバックシートの代表的な意見を紹介し双方向性を高めた講義を行う。			
■ 学習目標			
1.なぜ、経営に哲学が必要なのかを説明できる。			
2.経営哲学とは、どのようなものでなければならないのかを説明できる。			
3.経営者は、いかにあるべきかを説明できる。			
4.経営哲学を、組織内で共有するためにどうすればいいのかを説明できる。			
5.経営哲学がいかなる可能性を開くかを説明できる。			
■ 授業計画・試験の有無（16回「初修語は31回」に分け、回数、授業内容、自学自習等）			

1. 「京セラフィロソフィ」はどのようにして生まれたか
2. 公私のけじめを大切にする、潜在意識にまで透徹する強い持続した願望をもつ
3. 人間の無限の可能性を追求する、チャレンジ精神をもつ
4. 開拓者であれ、もうダメだというときに仕事のはじまり
5. 信念を貫く、楽観的に構想し、悲観的に計画し、楽観的に実行する
6. 真の勇気をもつ、闘争心を燃やす
7. 自らの道は自ら切りひらく、有言実行でことにあたる
8. 見えてくるまで考え抜く、成功するまであきらめない
9. 人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力、一日一日をど真剣に生きる
10. 心に描いたとおりになる、夢を描く
11. 動機、善なりや、私心なかりしか、純粋な心で人生を歩む
12. 小善は大悪に似たり、反省ある人生をおくる
13. 心をベースとして経営する、公明正大に利益を追求する
14. 原理原則にしたがう、お客様第一主義を貫く
15. 大家族主義で経営する、パートナーシップを重視する
16. 期末レポート

■ 授業外学習(予習・復習)

復習：授業で学んだ内容を振り返り（配布資料を読み返し）、感想を1週間以内にmanabaで提出する。本講義は復習中心に進めてください。

■ 受講要件	■ 成績の評価基準
経営哲学及び稲盛氏の経営思想に関心をもっていることが望ましい。なお、本講義は前期開講の「稲盛和夫の経営哲学（Ⅰ）」の続きであるが、本講義から受講しても差し支えはない。	毎回のフィードバックシートの提出（50％）、期末レポート（50％）。
■ 教科書	■ 参考書
書名：『京セラフィロソフィ』 著者等：稲盛和夫 出版社：サンマーク出版 出版年：2014年 ISBN：10 - 4763133713 教科書は、高価な本なので購入は必要ありません。講義時間に資料を配布します。	なし
■ 地域志向科目の区分（平成27年度入学生用）	■ 地域志向科目の区分（平成28年度以降入学生用）

■ 実務経験のある教員による実践的授業

■ SDGs

■ その他

前期の講義を受講した学生が引き続き受講してくれる場合、稲盛経営哲学への理解はより深まるので、前期の講義を受講したものが本講義も受講してくれることを歓迎する。

授業計画（講義日程）は変更になる可能性あり。